

昭和60年度通常総会開かる

昭和60年度通常総会は、さる4月26日に開かれ、名誉会員の推薦、OR学会賞の授与、フェローの紹介が行なわれました。以下に総会の議事録と事業報告、収支決算報告、事業計画、予算をお知らせします。

昭和60年度通常総会議事録

1. 開催日時 昭和60年4月26日(金)15時～17時
2. 場 所 東京弥生会館 文京区根津2-1-14
3. 出席者 近藤次郎他834名(うち委任状による出席787名)但し会員総数2,052名(1/3は684名)

上記のとおり出席者が定款に定める定足数に達したので、定款第28条により近藤会長が議長となり、議事録署名人に柳沢 滋、高井英造の両氏を選出して議事に入った。

[第1号議案 昭和59年度事業報告の件]

渡辺理事より別紙昭和59年度事業報告書にもとづき説明があり、承認された。

[第2号議案 昭和59年度決算報告の件]

森下理事より別紙昭和59年度決算報告書にもとづき説明があり、この報告に関し八巻監事より監査報告がなされ承認された。

[第3号議案 昭和60年度事業計画の件]

柳沢理事より別紙昭和60年度事業計画書について説明があり、原案どおり承認された。

[第4号議案 昭和60年度予算の件]

森下理事より別紙昭和60年度予算書について説明があり、原案どおり承認された。

[第5号議案 昭和60年度役員選任の件]

定款第15条にしたがい昭和60年度および61年度役員候補者が別紙のとおり発表され、満場一致で選任された。

[第6号議案 名誉会員推薦の件]

議長より理事会は定款第6条にしたがい名誉会員として横山勝義氏を推薦する旨計ったところ異議なく万場一致で承認された。

以上で議案の審議を終了し、日本オペレーションズ・リサーチ学会賞の発表ならびに表彰に入った。

伊理表彰委員長、阿部文献賞小委員長、小田部、原野表彰委員より各賞の選考経過の説明があり、会長より賞状・賞牌が下記のとおり授与された。

第13回日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞

福島雅夫

第9回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞
三根 久

第8回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞
株式会社 東芝

第4回日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞

1. 島田俊郎・福島憲治
2. 井塚滋夫・高田俊夫
3. 平林隆一・鈴木久敏・土屋 昇

引続き、新フェローとして高橋浩一郎、島田俊郎、矢部真、榎藤 元、茨木俊秀、柳井浩の各氏が紹介され、会長よりフェロー記が贈呈された。

以上で総会の議事を終了し、議長は閉会を宣した。

上記議決を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人はここに記名押印する。

昭和60年4月26日

社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

昭和60年度通常総会

議長 近藤 次郎

議事録署名人 柳沢 滋

" 高井 英造

昭和59年度事業報告

I 事業の報告

1. 研究発表会

- (1) 5月16日、17日の両日、小樽商科大学において、第55回研究発表会を開催し、5月18日には、第一管区海上保安庁、ニッカウイスキー北海道工場を見学した。

特別テーマ 安全とOR

特別講演

- 1) 大地震に対する地域の危険度評価

古村 哲也(日本ユニバック)

- 2) スポーツの傷害と安全について

藤江 正(小樽商大)

発表件数 97件
 特別テーマ } 93件
 一般発表 }
 部会報告 4件(ペーパー・フェア)
 参加者数 224名

(2) 11月3日, 4日の両日, 法政大学において, 第56回研究発表会を開催し, 11月5日には東芝新本社ビルを見学した。

特別テーマ 会話型のOR
 特別講演

1) 第10回国際OR会議報告
 伊理正夫(東京大)

2) マルコフ的劣化システムの取替政策
 河合一(大阪府立大)

3) 第三世界とマイコン
 森口繁一(東京電機大)

会長講演 OR学会の発展によせて
 近藤次郎(国立公害研)

パネルディスカッション DSSと会話型のOR

発表件数
 特別テーマ 7件
 (ペーパー・フェア1件を含む)
 一般発表 72件
 部会・グループ報告 8件
 マイコンソフト 3件
 インターナショナルセッション 3件
 参加者数 315名

2. シンポジウム

(1) 11月2日, 法政大学において, 第12回シンポジウム「信頼性とOR」を開催した。参加者は50名であった。

(2) 12月5日, 東京大学において, 第13回シンポジウム「地理的情報の処理に関する基本アルゴリズム」を開催した。参加者は59名であった。

(3) 11月20日~22日, 学習院百年記念会館において, 国際経済経営会議を, 国際経済経営会議機構: 学習院大学, 余暇開発センター, 日本経済新聞社とともに主催した。参加者は約600名であった。

3. 研究部会

研究部会・研究グループ終了, 中間報告 ◎印 終了報告を示す *印 研究グループを示す

部会名	主幹 査事	メンバー	開催回数	内容	場所
◎現場のOR教育	榎本久徳 (中部電力) 上田恭嗣 (三菱自工)	6名	11回	ORになじみのない現場の人にORでは何ができるのかを知らせ, 関心をもってもらうための手段として, 問題指向型の入力によるパソコン用のプログラムをいくつかの手法について作成した。	中部電力会議室
◎OR/MSとシステム・マネジメント	山田善靖 (産能大) 根本忠明 (青山学院大)	44名	12回	OR/MSの考え方, 問題解決方法を用いて企業における意思決定活動を改善し, 経営システムをより有効に機能させる方法を体系的にかつ理論的に研究した。	東京工業大学システム科学専攻会議室
◎第三世界とマイコン	森口繁一 (東京電機大) 小田部 齊 (東 燃) 森村英典 (東工大)	17名	11回	“第三世界の発展なくして世界の繁栄はありえない”というプラント委員会等の提言があるが, 具体的なシナリオモデルによる説得はまだなされていない。当部会は電子情報技術の移転を主軸とするシナリオによりこの穴を埋めることを目標として, いくつかの発表と提言を行なった。今後も, 研究グループとして活動を継続していく。	東亜燃料工業(株)会議室
◎確率モデルとその応用	小和田 正 (名工大) 澤木勝茂 (南山大)	11名	8回	現実のシステムの数学的モデル化およびその解析法に焦点をしばって研究した。しばりきれないものも問題はあったが, 問題へのアプローチの点でかなり共通理解が得られたことは, 今後の研究にとり1つの成果と考えられる。	名古屋工業大学計測工学科

部 会 名	主 幹 査 事	メンバー	開催回数	内 容	場 所
◎未来分析	小 島 光 造 (小野事務所) 小 岩 明 (筑波大)	20名	16回	現在わが国が抱えている社会、経済、経営、国際問題について今後いかにあるべきかを研究し、多大の成果をおさめた。今後この研究をもとにさらに国家社会への貢献をめざしたい。	東京都労働福祉会館
◎信頼性保全性	阿 部 俊 一 (青山学院大) 宮 川 雅 巳 (東工大)	28名	10回	①信頼性・保全性に関する新しいモデルや手法の開発、②実務上の問題解決、③大学等の研究者と企業の実務担当者との交流、④OR学会以外の専門家との交流を目的として研究会を開催した。	東京工業大学経営工学科
待ち行列(常設)	橋 田 温 (電々公社) 川 島 幸之助 (電々公社)	38名	10回	通信網、計算機、運輸交通、設備貯蔵などの確率システムに対する待ち行列手法の応用例と待ち行列理論の研究結果を発表・討論した。例会は大学と企業の研究者の情報交換・議論の場として有意義であった。	東京工業大学理学部
数理計画(常設)	田 辺 國 士 (統数研) 鈴 木 敦 夫 (東京大)	87名	10回	月1回開催される会合では、できる限り多様な分野で数理計画法にたずさわる理論家、実務家に最新の研究成果、事例を報告してもらい討論を行なった。また第5回MPシンポジウムを支援した。	統計数理研究所
数理計画法(九州)	古 川 長 太 (九州大) 岩 本 誠 一 (九州大)	28名	5回	研究範囲は数理計画全般におよび対象とするモデルは静的・動的ならびに確定的確率的と多岐にわたっている。その内容は数理計画法の経営計画への応用、最適制御の経済モデルへの応用、非線形計画における2次最適性条件の新しい考察、動的計画における最適制御、順序統計量と信頼性理論等である。	九州大学理学部数学教室
意思決定のための会計情報	伏 見 多美雄 (慶応大) 山 口 俊 和 (東京理科大)	15名	8回	経営意思決定をサポートするための会計情報のあり方について、実践的な研究を行なった。具体的には(1)意思決定のための経済計算と会計情報、(2)経営戦略支援システムと会計情報、(3)パソコンによるDSSという3つの視点から研究活動を展開している。	慶応義塾大学ビジネス・スクール会議室
システム最適化	田 畑 吉 雄 (大阪大) 石 井 博 昭 (大阪大)	40名	7回	数理計画法(関西)研究部会をひきつぐ形で出発したが、この1年は、ホットな話題の提供者に恵まれ、新しい主力メンバーもたくさん得られた。特にSimulated Annealing Method や多種流問題などの発表はセンセーショナルであった。	大阪駅周辺

部 会 名	主 幹 査 事	メンバー	開催回数	内 容	場 所
決定モデルとその応用	坂 口 実 (大阪大) 中 井 暉 久 (大阪大)	22名	8回	逐次決定解析, 最適制御, ゲームの理論, 各種の数値計画法を中心に, 広く決定モデルに関する研究を行っており, 6編のオリジナル論文が得られた。それらは国内外の雑誌に投稿中で, うち3編は秋の学会で公表された。	大阪大学基礎工学部
政策科学	末 内 潔 (中部大) 片 山 隆 仁 (防衛庁)	30名	12回	総合科学的とり扱いを指向して展開されている「政策科学」の考え方, および方法を意思決定の場に活かすことを目的とし, 文献・資料研究とともに, 現実の社会の動き, 情報・意思決定の実際等について研究討論している。	(株)三菱総合研究所会議室
交通問題	矢 部 真 (工学院大) 八 戸 英 夫 (工学院大)	16名	11回	磁気浮上式鉄道に代表される新しい交通システム開発の現状調査と実用性に関する諸問題を討論し, さらには従来の大量輸送型から多品種少量輸送型への移行にともなって, 物流サービスが多様化している現状を研究している。	東洋経済新報社ビル
離散システム	富 沢 信 明 (新潟大) 藤 重 悟 (筑波大)	13名	7回	グラフ, ネットワーク, マトロイド, ゲーム, ベトリネット等の離散システム全般に関連した組合せ論や, 離散的最適化問題に関して具体的な問題の解決を通して, 問題解決の手法を開発し, 新たな概念の創造を行ない, 新しい数学および工学の分野を開拓するのが主なねらいである。	東京工業大学
*経営 ◎	上 田 亀之助 (上田イノベーション) 樋 爪 徹 (山之内製薬)	23名	12回	社会的有機統一体である個人, 企業, 世界等が, 変転する環境の中で, より良くダイナミックに生きつづけてゆくにはどうしたらよいかを, 現実に即して研究した。	東京都勤労福祉会館
*予測と周辺 ◎ 課題	西 野 吉 次 (早稲田大) 浪 平 博 人 (ブリヂストンタイヤ)	14名	0 (今年度)	予測の新技术法に関心をむけるとともに実際の予測が現実の場でいかに使われ, その結果はいかにフォローされ行動が制御されたかに注目し, 事例の交換を行なった。会合は, 月1回のペースで行ない, 発表事例22, T I M S 予測文献19を教えた。文献については, 抄訳の形でまとめ事務局に渡し, 会員が利用できるようにしてある。83年で事実上終了した。	
*クリアトロンの数学的研究 ◎	三重野 博 司 (東京理科大) 広 内 哲 夫 (文教大)	9名	9回	クリアترونとは, 創造の抽象機械で Creation-tron の略である。推論に様相論理の偶然性を加味することで, 偶発的な創造がなされる過程を述語論理化することができた。さらに時間の様相化によりベトリネット表現が可能となった。	東京理科大学理工学部

部 会 名	主 幹 査 事	メンバー	開催回数	内 容	場 所
* D P	小田中 敏 男 (都立工科大) 蔵 野 正 美 (千 葉 大)	8 名	10回	D Pの理論と応用を考究する。理論としては適応制御過程に重点を置き、応用としては、経営科学、制御過程、人工知能への適用を図る。	日科技連

4. 普及活動

(1) 定例講演会

開催年月	テ ー マ	講 師	参加人数	開催地区
59年9月	第三世界とマイコンとIFORS	森 口 繁 一	12名	本 部
11月	Problem Solving in a Complex World	Thomos L. Saaty	98名	関 西
12月	第1回日中統計シンポジウムに参加して	児 玉 正 憲	16名	九 州
60年1月	格差と集中 ——税制問題について考える——	牧 野 都 治	18名	中 部
	電力系統の最適問題	青 木 兼 一	33名	中国四国
2月	問題解決型手法 AHP (Analytic Hierarchy Process) について	刀 根 薫	25名	本 部

(2) モニター制度

昭和55年度より、OR誌をはじめ研究発表会、シンポジウムその他学会活動に対する会員の要望を広く把握するため、モニター制度を運用している。今年度は第9期モニター（59年6月～11月）として37名、第10期モニター（59年12月～60年5月）として25名の方々をお願いし、毎月アンケートに回答していただいた。また研究発表会の際には、モニター会議を開催し、各モニターから積極的、かつ建設的な意見を集めることができた。これらは学会活動に有効に活用されている。

(3) ORセミナー

第5回ORセミナー「情報量統計学——A I Cによる統計学の再構成——」を昭和59年11月15日、16日の両日、赤池弘次氏（統計数理研究所）他3名を講師として開催した。参加者は45名であった。

5. 刊行物

(1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会機関誌「オペレーションズ・リサーチ」Vol. 29, No. 3 から Vol. 30, No. 2 まで12号（本文766ページ）を発行した。各号は特集を主とし、他にトップの視点、連載講座、事例研究、総合報告、研究レポート、企業のOR活動、研究室だより、フォーラム、書評、部会報告等を掲載した。特集のテーマは次のとおりであった。

Vol. 29, No. 3「トラフィックのOR」、同 No. 4「OR教育」、同 No. 5「中小企業のOR」、同 No. 6「企業のOR教育」、同 No. 7「モデルと解析」、同 No. 8「流通のOR」、同 No. 9「社会的リスクのOR」、同 No. 10「事例研究——59年春季研究発表会より——」、同 No. 11「マネジメントシステムとOR」、同 No. 12「暮しのOR」、Vol. 30, No. 1「第三世界とマイコン」、同 No. 2「まちづくりのOR」

(2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌 (Journal of the Operations Research Society of Japan) Vol. 27, No. 1 から No. 4 (369ページ) を発行した。本年度の投稿論文は54編（再投稿31編を含む）で掲載論文は19編であった。

(3) 研究発表会アブストラクト集

春・秋研究発表会のアブストラクト集を発行した。

(4) 「米国におけるORの実践視察団報告書——第10回IFORS会議を中心として——」(R-84-1) を発行した。

6. 他学協会との交流

(1) 他学協会の開催した下記の講演会等に協賛、後援した。

- 1 海洋空間の有効利用に関する国際シンポジウム
- 2 第14回信頼性・安全性シンポジウム
- 3 第15回確率過程論とその応用国際会議
- 4 第5回数値計画シンポジウム

- 5 第27回自動制御連合講演会
- 6 第10回システムシンポジウム
- 7 「情報理論とその応用研究会」第7回シンポジウム
- 8 セミナー「FMSとそのソフトウェア」
- 9 第15回信頼性・保全性シンポジウム
- 10 第8回ビークルオートメーションシンポジウム
- 11 講習会「システムとしてのロボット」
- 12 第35回自動制御講演会
- 13 第5回シミュレーション・テクノロジー・コンファレンス
- 14 第11回システムシンポジウム
- 15 第1回ファジィシステムシンポジウム

(2) (社)日本経営工学会, (社)日本品質管理学会との連合大会および連合シンポジウムの開催を検討した。

7. 公的活動

(1) 日本学術会議

前年度に引続いて, 関連学会(日本経営工学会・日本品質管理学会)と協力して, 日本学術会議に対し, 新専門領域の設置についての申請を行なった。その結果, 7月3日付の政令によって正式に「経営工学」が第5部の専門として認められた。

また11月には経営工学研究連絡委員会(研連)が発足し, 本学会は, この研連構成学会としての登録が認められ, 委員を選出派遣した。

さらに第13期日本学術会議会員候補者ならびに同推薦人の届出を行なった。

(2) 経営工学関連学会協議会(FMES)

前述の関連学会とともに協議会を構成し, 日本学術会議に関連する諸問題協議, 文部省科学研究費特定研究領域の共同申請, 連合シンポジウムの開催準備等の諸活動に協力した。

(3) 日本工学会

工学系60学協会の連合体である日本工学会の活動に協力し, 同会事務研究委員会に委員を参加させた。

8. 国際協力

(1) IFORSが発行するIAOR(International Abstracts in Operations Research)誌の編集発行に協力し, 日本の文献抄録57編を送付するとともに, IAOR誌のVol.28, No.1~3, Vol.29, No.1~3の国内頒布に協力した。またEJORの編集委員を送り, その編集に協力した。

(2) 第10回国際OR会議が昭和59年8月6日~10日まで, 米国のワシントン市で開催され, 日本代表論文として下記の2編が発表された。

・ A Cost Information System for R & D and Production Management Programs as Applied to a Solar Cell Development Project

刀根 薫(埼玉大)他3名

・ Queueing Models for Congestion Control in Telecommunication Systems

川島幸之助, 橋田 温(電々公社)

その他日本から招待講演3件, 一般発表12件の発表があった。

(3) 第10回国際OR会議への参加を中心とした「米国におけるORの実践」視察団の派遣を行なった。

視察は, 森口繁一団長, 刀根薫副団長, 若山邦紘幹事として総員16名。

7月29日出発, カリフォルニア大学バークレー校において2日間の研修を受け, ワシントンへ移動IFORS大会に出席し, その後ワシントン周辺でLMI(Logistic Management Institute), CNA(Center for Naval Analyses), IDA(Institute for Defense Analyses), 世界銀行, Bell Laboratories, IBM等を訪問, 各所におけるOR活動に関する説明を受け, また見学した。8月16日帰国。

(4) 第10回国際OR会議を機に, アジア太平洋地域のIFORS加盟学会(ASOR, ORSC, ORSHK, ORSI, ORSJ, KORS, ORSNZ, ORSS)とAPORS(Association of Asian-Pacific Operational Research Societies)結成の予備会合を行ない結成準備会の中心となって準備のための活動を行なった。

(5) 1983年より1985年のIFORS副会長として, 当学会員伊理正夫氏がIFORSの運営に協力している。

(6) 海外学会要人の来日

6月13日 Prof. Saul I. Gass, 11月4日, Prof. Jack Teghen, Jr.(ベルギーのOR学会会長), 11月14日 Prof. Arne Jensen(元IFORS会長), 11月16日 Prof. Thomas L. Saatyの各氏が来日し, 定例講演会, 懇親会等を開催して意見交換が行なわれた。

9. 支部活動

各支部ごとに次のとおり活動した。

支 部 活 動 報 告 書

	北 海 道	東 北	中 部	関 西	中国四国	九 州
運 営 会 議	支部総会 1回	支部総会 1回	支部総会 1回	支部総会 1回	支部総会 1回	支部総会 1回
	運営委員会 1回	運営委員会 1回	運営委員会 1回	運営委員会 2回	運営委員会 1回	運営委員会 1回
	幹事会 3回	幹事会 3回	幹事会 2回		幹事会 1回	
研 究 会	1回	4回	8回	システム最適化 7回 決定モデルとそ の応用 8回 応用確率論 5回 政策科学 5回 経営科学文献情 報検索 21回	2回	2回
講 演 会	1回	1回	支部 1回 定例 1回	5回	6回	2回
出 版			支部ニュース 9回 支部研究発表会 アブストラクト 1回			支部ニュース 4回
そ の 他	研究発表会 1回 懇親会 3回 見学会 1回	懇親会 1回	工場見学 1回 懇親会 4回 研究発表会 1回	見学会 1回		見学会 1回

10. 表 彰

- (1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞
第13回日本オペレーションズ・リサーチ学会文献賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。
・ A Nonsmooth Optimization Approach to Nonlinear Multicommodity Network Flow Problems,
Journal of the Operations Research Society of Japan Vol.27, No.2 他1編
福島雅夫 (京都大学)
- (2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会普及費
第10回日本オペレーションズ・リサーチ学会普及賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。
・ 三根 久 (京都大学)
- (3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞
第9回日本オペレーションズ・リサーチ学会実施賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。
・ 株式会社 東 芝
- (4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞

- 第5回日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究奨励賞の選考を行ない、下記のとおり決定した。
- ・ 歯科疾患SDモデル
オペレーションズ・リサーチ Vol.29, No.4
島田俊郎 (明治大学) 福島憲治 (日本歯科医師会)
 - ・ 電力デマンド契約システムの確立
オペレーションズ・リサーチ Vol.29, No.5
井塚滋夫・高田俊夫 (川崎製鉄株式会社水島製鉄所)
 - ・ Tool Module Design Problem for NC Machine Tools
Journal of the Operations Research Society of Japan Vol.27, No.3
平林隆一 (東京理科大) 鈴木久敏 (東京工業大学) 土屋 昇 (日立製作所)
- (5) 日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞
第2回日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞の選考を行ない、下記に対して授与した。
・ Derivation of the Probability Function of

Distance and Its Application to Urban
Facility Planning

大澤義明 (筑波大学・修士論文)

- ・有限点集合の凸包を求める効率のよいアルゴリズム

田村明久 (東京工業大学・学士論文)

- ・道路整備優先順位決定手法の検討

吉崎 収 (埼玉大学・修士論文)

11. 受賞助成金推薦

昭和59年度鹿島学術振興財団の研究助成候補者として下記のとおり推薦した。

- ・第三世界とマイコン

——発展途上国への開発援助とマイクロ電子技術の技術移転に関する研究——

研究代表者 森村英典 (東京工業大学)

(3月14日 研究助成決定)

II 処務の概要

1. 会議に関する事項

(1) 通常総会

開催年月日	議 事 事 項	結 果
59. 4. 26	1. 昭和58年度事業報告の件 2. 昭和58年度収支決算報告の件 3. 監査報告の件 4. 昭和59年度事業計画の件 5. 昭和59年度予算の件 6. 昭和59年度役員選任の件 7. 昭和59年度評議員選任の件 8. 昭和58年度学会賞の発表と表彰 9. 新フェロー紹介	承認 " " " " " " "

(2) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	結 果
59. 5. 25	1. 通常総会議事録の件 2. 昭和59年度各委員会委員・幹事推薦の件 3. 表彰委員会委員長指名の件 4. 春季研究発表会の報告 5. I F O R S 視察団参加者募集の協力依頼の件 6. 国際関係報告の件 7. 公的問題関係の件 (1) 学術会議の動向と対応の件 (2) 経営工学関連学会協議会の件 (会則審議ならびに代表選出) 8. 支部総会報告書の件 (中部・関西・九州)	承認 " " " 了承 " " " 承認
59. 7. 20	1. 支部長会議の報告 2. 第12回シンポジウム (案) 3. 秋季研究発表会の件 (実行委員・予算) 4. 定例講演会・セミナー開催の件 5. 第1四半期収支計算報告書 6. 表彰委員会委員委嘱の件 7. 学術会議関係 8. 経営工学関連協議会 (FMES) 関係 9. 著作権問題について現状と見透し 10. I F O R S 国際会議の日本代表と議題の件 11. 視察団派遣の件	了承 承認 " " " " 了承 " 継 続 承認 "

開催年月日	議 事 事 項	結 果
	12. APORSの件 13. 国際委員会設置の件 14. OR誌特集の予定(8, 9月号) 15. 支部総会報告の件(中国四国・東北・北海道)	承認 〃 〃 〃
59. 9. 21	1. 会員増強委員会と活動の件 2. 事務局強化の件 3. 国際委員会委員委嘱の件 4. IFORS/APORS報告の件 5. 視察団報告の件 6. 1984年国際経済経営会議主催の件 7. 春季研究発表会収支決算の件 8. 秋季研究発表会プログラム 9. 第12回, 13回シンポジウム開催の件 10. 定例講演会開催報告の件 11. 第5回ORセミナー開催の件 12. 昭和59年度上半期収支計算報告の件 13. 学生論文賞候補推薦の件 14. FMESの件(特定研究, 連合シンポジウムの件) 15. OR誌特集の予定(10, 11月号)	承認 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
59. 11. 30	1. 支部長会議開催報告 2. 第12回シンポジウム開催報告 3. 支部長会議開催報告 4. 第12回シンポジウム開催報告 5. 秋季研究発表会開催報告 6. 1985年春季研究発表会会場の件 7. 研究部会・グループ新設・継続申請の件 8. 定例講演会開催報告と予定 9. 第5回ORセミナー開催報告 10. 第10期モニター委嘱の件 11. 第2回国際経済経営会議開催報告の件 12. OR誌特集の予定(12, 1月号) 13. JORSJの現状報告	了 承 承認 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 了 承
60. 1. 24	1. 昭和58・59年度会費未納者(除名対象者)について 2. 昭和59年度第3四半期収支計算報告の件 3. 研究部会の新設ならびに継続申請(追加)承認の件 4. 第13回シンポジウム開催報告の件 5. OR誌特集の予定(2, 3月号) 6. APORS第1回理事会開催の件 7. ORに関するソフトウェアの表彰について(案) 8. 日本学術会議会員候補者ならびに推薦人選出および届出の件 9. 科研費特定研究の申請について 10. 昭和60年度事業計画ならびに予算案の件 11. 通常総会の日時について	承認 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

開催年月日	議 事 事 項	結 果
60. 4. 16	1. OR学会賞選考経過 2. 名誉会員推薦の件 3. フェロー推薦の件 4. APORS理事会開催報告の件 5. 3学会連合シンポジウム開催の件 6. 特定研究「第3次経営技術革新」申請の件 7. 秋季研究発表会ならびにシンポジウムの件 8. 数理計画シンポジウムの件 9. 事務局職員採用の件	承認 " " " " " " " "

(3) 評議員会

開催年月日	議 事 事 項	結 果
60. 4. 16	1. 総会議案の件 (1) 昭和59年度事業報告の件 (2) 昭和59年度決算報告の件 (3) 監査報告の件 (4) 昭和60年度事業計画案の件 (5) 昭和60年度予算案の件 (6) 昭和60年度役員候補者の件	承認 " " " " " "

(4) 支部長会議

支部長会議は5月(北海道)と11月(東京)の2回開催し、OR学会の諸問題について意見を交換し、本部と支部の意見調整を行なった。

フェロー会議	1回
主査会議	1回
支部長会議	2回
モニター会議	2回
庶務幹事会	10回
経営工学関連学会協議会(FMES)	8回
国際関係委員会	7回
OA化委員会	4回
広告委員会	3回
会員増強委員会	4回
会計幹事会	1回

(5) 委員会・幹事会等

(1) 常設委員会

編集委員会	14回
IAOR委員会	5回
研究普及委員会	22回
表彰委員会	7回

(2) その他の委員会・幹事会

2. 会員状況

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員	計
1984年2月末日	6	2101	125	108	2340
1984年度 入会		+121	+ 58	+ 1	+180
1984年度 移行	正→学	- 1	+ 1		0
	学→正	+ 38	- 38		0
1984年度 退会		- 90	- 6	- 5	-101
1984年度 除名		- 40	- 2		- 42
1985年2月末日	6	2129	138	104	2377

	名誉会員	正会員	学生会員	賛助会員
本部	5	1283	96	67
北海道		61	4	3
東北		57	2	5
中部	1	203	9	10
関西		314	20	11
中国四国		134	5	5
九州		75	2	3
合計	6	2129	138	104

昭和59年度収支決算報告書

貸借対照表

昭和60年2月28日

1. 資産の部

勘定科目		金額	
大科目	中科目		
流動資産	現金	53,185,621	
	預金	8,000,000	
	有価証券	3,562,510	
	未収金	125,333	
	前払金		
流動資産合計			64,873,464
有形固定資産		0	
有形固定資産合計			0
資産合計			64,873,464

2. 負債の部

勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	中 科 目		
流 動 負 債	預 り 金	261,898	
	未 払 金	213,830	
	前 受 金	22,818,248	
	流 動 負 債 合 計		23,293,976
固 定 負 債	退 職 給 与 引 当 金	8,582,388	
	敷 金 引 当 金	1,821,640	
	名 簿 作 成 引 当 金	1,000,000	
	国 際 協 力 引 当 金	4,817,106	
	記 念 事 業 引 当 金	2,000,000	
	表 彰 事 業 引 当 金	600,000	
	別 途 引 当 金	3,029,466	
固 定 負 債 合 計		21,850,600	
負 債 合 計		45,144,576	

3. 正味財産の部

勘 定 科 目		金 額	
大 科 目	中 科 目		
基 本 金 剩 余 金	基 本 金		5,000,000
	次 期 繰 越 収 支 差 額 (うち当期増加額)	14,728,888 (1,060,576)	
剩 余 金 合 計			14,728,888
正 味 財 産 合 計			19,728,888
負 債 お よ び 正 味 財 産 合 計			64,873,464

財 産 目 録

昭和60年 2月28日

	金 額	
(資産の部)		
I 流動資産		
1. 現金預金		
(1) 現金		
現金手許有高	19,572	
(2) 振替貯金		
東京振替貯金局	2,233,225	
(3) 当座預金		
第一勧業銀行八重洲口支店	735,938	
住友銀行白山支店	29,039	
(4) 普通預金		
第一勧業銀行八重洲口支店	4,454,289	
住友銀行白山支店	5,396,452	
(5) 定期預金		
第一勧業銀行八重洲口支店	19,000,000	
住友銀行白山支店	21,317,106	
2. 有価証券		
日本長期信用銀行本店	8,000,000	
3. 未収金		
59年度会費外	3,562,510	
4. 前払金		
抜刷代金	125,333	64,873,464
II 有形固定資産		0
資 産 合 計		64,873,464
(負債の部)		
I 流動負債		
1. 預り金		
職員に対する源泉所得税外	261,898	
2. 未払金		
印刷費・消耗品費外	213,830	
3. 前受金		
60年度会費前受	22,818,248	23,293,976
II 固定負債		
1. 退職給与引当金	8,582,388	
2. 敷金引当金	1,821,640	
3. 名簿作成引当金	1,000,000	
4. 国際協力引当金	4,817,106	
5. 記念事業引当金	2,000,000	
6. 表彰事業引当金	600,000	
7. 別途引当金	3,029,466	21,850,600
負 債 合 計		45,144,576
正 味 財 産		19,728,888

注：基本財産たる資産

定期預金（第一勧業銀行八重洲口支店） 5,000,000

収 支 計 算 書

(昭和59年3月1日から昭和60年2月28日まで)

収支計算の部

1) 収入の部						
勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
基本財産運用収入	基本財産運用収入		287,500	287,500	0	
事業収入	会誌頒布収入		10,813,300	10,368,272	445,028	
	研究発表会収入		3,190,000	3,082,860	107,140	
	講演会収入		457,500	308,000	149,500	
	講習会収入		725,000	1,290,000	△565,000	
	資料等頒布収入		600,000	1,000,400	△400,400	
	I A O R 収入		490,000	565,900	△105,900	
	E J O R 収入		102,000	68,000	34,000	
	視察団収入		24,000,000	12,963,320	11,036,680	
	正会員入会金収入		180,000	145,200	34,800	
	学生会員入会金収入		42,000	34,800	7,200	
会費収入	正会員会費収入		27,640,000	26,360,767	1,279,233	
	学生会員会費収入		1,000,000	730,000	270,000	
	賛助会員会費収入		12,350,000	11,612,500	737,500	
雑収入	広告収入		2,380,000	2,931,400	△551,400	
	受取利息		2,270,000	2,132,418	137,582	
	雑収入		100,000	579,090	△479,090	
国際協力 引当金収入 引当金取崩 収入			0	1,162,314	△1,162,314	
			0	0		
当 期 収 入 合 計			86,627,300	75,652,741	10,974,559	
前期繰越 収支差額			13,668,302	13,668,302	0	
収 入 合 計			100,295,602	89,321,043	10,974,559	
2) 支出の部						
勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
管理費	家賃		2,840,000	2,396,000	444,000	
	共益費		916,800	916,800	0	
	什器備品費		50,000	173,500	△123,500	
	会議費		891,000	772,318	118,682	
	旅費交通費		1,806,000	1,457,220	348,780	
	通信費		1,226,000	650,235	575,765	
	印刷費		476,000	368,960	107,040	
	消耗品費		600,000	637,618	△37,618	
	O A 化準備費		910,000	265,000	645,000	

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	差 異	備 考	
大 科 目	中 科 目	小 科 目					
事 業 費	修 繕 費		20,000	1,000	19,000		
	結 料 手 当		7,785,000	7,059,494	725,506		
	福 利 厚 生 費		1,350,000	1,077,449	272,551		
	臨 時 雇 賃 金		890,000	638,000	252,000		
	保 險 料		49,000	79,000	△30,000		
	負 担 金		40,000	41,900	△1,900		
	支 払 手 数 料		110,000	81,460	28,540		
	租 税 公 課		25,000	22,000	3,000		
	退 職 給 与 引 当 金 繰 入 額		1,000,000	1,000,000	0		
	敷 金 引 当 金 繰 入 額		181,000	181,000	0		
	雑 費		150,000	138,763	11,237		
	会 費 徴 収 不 能		0	1,677,000	△1,677,000		
	研 究 発 表 会 費						
		開 催 費		1,790,000	1,879,604	△89,604	
		印 刷 費		1,140,000	771,650	368,350	
	印 刷 製 本 費						
		機 関 誌		13,200,000	13,824,330	△624,330	
		論 文 誌		2,000,000	1,881,726	118,274	
		報 文 集		200,000	139,000	61,000	
		印 刷 費		110,000	104,080	5,920	
	国 際 協 力 費						
		I F O R S 会 費		275,000	262,933	12,067	
		I A O R 購 入 費		275,200	262,346	12,854	
		E J O R 購 入 費		102,000	66,524	35,476	
		A P O R S 関 係 費		210,000	27,500	182,500	
		視 察 団 派 遣 費		24,000,000	12,996,095	11,003,905	
	研 究 活 動 費						
		講 演 会 開 催 費		642,000	497,760	144,240	
		講 習 会 開 催 費		627,000	579,132	47,868	
		研 究 部 会 費		750,000	750,000	0	
		支 部 費		2,290,000	2,309,000	△19,000	
		表 彰 事 業 費		454,500	612,316	△157,816	
		会 議 費		857,000	586,995	270,005	
	旅 費 交 通 費		1,186,400	1,248,700	△62,300		
	通 信 運 搬 費		3,391,000	3,422,351	△31,351		
	諸 謝 金		1,860,000	1,380,000	480,000		
	給 料 手 当		7,785,000	7,059,493	725,507		
	編 集 校 正 費		1,700,000	1,716,000	△16,000		
	消 耗 品 費		700,000	658,668	41,332		
	表 彰 事 業 引 当 金 繰 入 額		200,000	200,000	0		
	記 念 事 業 引 当 金 繰 入 額		500,000	500,000	0		
	国 際 協 力 引 当 金 繰 入 額		0	1,162,314	△1,162,314		
	雑 費		100,000	58,921	41,079		
予 備 費			1,000,000	0	1,000,000		
当 期 支 出 合 計			88,660,900	74,592,155	14,068,745		
次 期 繰 越 額			11,634,702	14,728,888	△3,094,186		
支 出 合 計			100,295,602	89,321,043	10,974,559		

昭和60年度事業計画

長期計画の第3年度として、これまでの事業を充実発展させるとともに文部省特定研究、国際交流、関連学会との関係を重視して学会活動の振興をはかる。あわせて会員を増強し学会事務の機械化を完成して活動基盤を整備する。

1. 研究発表会、シンポジウム

- (1) 研究発表会は、春秋2回開催し、春季は5月15日、16日電気ビル(九州)において、秋季は10月2日、3日東京工業大学において開催する。特別テーマは春季は「情報システムとOR」とする。見学会は5月17日、10月4日にそれぞれ研究発表会とあわせて行なう。
- (2) シンポジウムは2回開催する。第1回は11月4日東京工業大学で、テーマは「研究の管理経営と産官学連携問題」とし、第2回は日時・テーマともに検討中。

2. 研究部会・グループ活動

- (1) 研究部会活動は、「数理計画法(九州)」「意思決定のための会計情報」「離散システム」「システム最適化」「決定モデルとその応用」「政策科学」「交通問題」の7部会と、常設の「待ち行列」「数理計画」の2部会、計9部会が活動を継続するとともに、新たに「政策科学(関西):主査小笠原暁(芦屋大学)」「地域政策:主査安田八十五(筑波大学)」「トップ業務の創造的エキスパートシステム設計:主査三重野博司(東京理科大学)」「新社会システム:主査加地郁夫(北海道大学)」「確率モデルとその応用:主査沢木勝茂(南山大学)」の5部会と、常設の「OR/MSとシステムマネジメント:主査山田善靖(産業能率大学)」の1部会、計6部会が、その活動を開始する。
- (2) 研究グループは、既設の「DP」の他、新たに「第三世界とマイコン:主査森口繁一(東京電機大学)」「社会経済分析:主査小島光造(小野技術研究所)」「日本的システム科学:主査上田亀之助(上田イノベーション研究所)」が活動を開始する。

3. 普及活動

第6回ORセミナーを企画実施する。定例講演会、座談会、学会活動の広報等のOR普及活動に努める。またOR誌をはじめ、OR普及活動について広く意見を求めるためのモニター制度を継続する。

4. 刊行物

- (1) 機関誌「オペレーションズ・リサーチ」を12号、

論文誌「Journal of the Operations Research Society of Japan」(日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌)を4号発行する。

- (2) 研究発表会アブストラクト集を2回発行する。
- (3) シンポジウムの予稿集を2回発行する。
- (4) 報文集を発行する。
- (5) 会員名簿を発行する。

5. 他学協会との交流

- (1) 前年度に引続き、経営工学関連学会協議会に委員を派遣し、その活動に協力する。
- (2) 日本学術会議経営工学研究連絡委員会、(社)日本経営工学会ならびに(社)日本品質管理学会との共催により、第1回連合シンポジウムを7月15日日本学術会議講堂において開催する。
- (3) その他関連学協会との交流を積極的に進める。

6. 長期計画の推進

昭和57年度に、25周年を契機として策定された長期計画(5年)にもとづき以下の事業を推進する。

- (1) 日本学術会議、経営工学研究連絡委員会に委員を派遣し、その活動に協力する。
- (2) 日本学術会議第13期会員(第5部経営工学専門)の選出に協力し、推薦人を派遣する。
- (3) (社)日本経営工学会ならびに(社)日本品質管理学会と共同で文部省科学研究費特定研究を申請する。
- (4) 会員増強を推進する。
- (5) 学会事務のOA化を推進する。
- (6) 第2次長期計画作成の準備をする。

7. 創立30周年記念事業

昭和62年に創立30周年を迎えるので、30周年記念事業委員会を発足させる。

8. 国際協力

- (1) IFORS(国際OR学会連合)、APORS(アジア太平洋OR学会連合)を通じて各国のOR学会と協力する。
- (2) アジア太平洋地域のIFORS加盟学会APORS(Association of Asian-Pacific Operational Research Societies)の設立第1回理事会を、国立公害研究所で3月21日に開催する。
- (3) 国内のOR文献抄録の作成を通じIAOR(International Abstracts in Operations Research)誌の編集発行に協力するとともにIAOR誌の国内頒布を行なう。またEJORの編集に協力する。

9. 支部

各支部において研究会、講演会、見学会等の活動を行なう。

10. 表彰

文献賞, 実施賞, 普及賞, 事例研究奨励賞ならびに
 学生論文賞の昭和60年度選考を行なう。

11. 通常総会

通常総会は4月26日(金)東京において行なう

昭和60年度予算書

収入支出の予算

(昭和60年3月1日から昭和61年2月28日まで)

勘定科目			予算額	前年度予算額	増減(△)	備考
大科目	中科目	小科目				
1) 収入の部						
基本財産運用収入	基本財産利息収入		275,000	287,500	△12,500	
事業収入	会誌頒布収入		10,485,600	10,813,300	△327,700	
	研究発表会収入		3,780,000	3,190,000	590,000	
	講演会収入		390,000	457,500	△67,500	
	講習会収入		1,000,000	725,000	275,000	
	資料等頒布収入		400,000	600,000	△200,000	
	I A O R 収入		490,000	490,000	0	
	E J O R 収入		119,000	102,000	17,000	
	I F O R S 視察団参加費収入		0	24,000,000	△24,000,000	
入会金収入	正会員入会金収入		240,000	180,000	60,000	
	学生会員入会金収入		66,000	42,000	24,000	
会費収入	正会員会費収入		27,600,000	27,640,000	△40,000	
	学生会員会費収入		1,000,000	1,000,000	0	
	賛助会員会費収入		12,825,000	12,350,000	475,000	
雑収入	広告収入		3,100,000	2,380,000	720,000	
	受取利息		2,470,000	2,270,000	200,000	
	名簿収入		500,000	0	500,000	
	雑収入		100,000	100,000	0	
	国際協力引当金取崩収入		500,000	0	500,000	
	名簿作成引当金取崩収入		1,000,000	0	1,000,000	
	退職給与引当金取崩収入		146,520	0	146,520	
当期収入合計			66,487,120	86,627,300	△20,140,180	
前期繰越収支差額			14,728,888	13,668,302	1,060,586	
収入合計			81,216,008	100,295,602	△19,079,594	
2) 支出の部						
勘定科目			予算額	前年度予算額	増減(△)	備考
大科目	中科目	小科目				
管理費	家賃		2,570,000	2,840,000	△270,000	
	共益費		916,800	916,800	0	
	什器備品費		50,000	50,000	0	

勘 定 科 目			予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考	
大 科 目	中 科 目	小 科 目					
事 業 費	会 議 費	費	880,000	891,000	△11,000		
	旅 交 通 費	費	1,667,000	1,806,000	△139,000		
	通 信 費	費	1,200,000	1,226,000	△26,000		
	印 刷 費	費	450,000	476,000	△26,000		
	消 耗 品 費	費	700,000	600,000	100,000		
	O A 化 準 備 費	費	400,000	910,000	△510,000		
	修 繕 費	費	20,000	20,000	0		
	給 料 手 当	費	8,940,000	7,785,000	1,155,000		
	福 利 厚 生 費	費	1,370,000	1,350,000	20,000		
	臨 時 雇 賃 金	費	100,000	890,000	△790,000		
	保 險 料	費	79,000	49,000	30,000		
	負 担 金	費	50,000	40,000	10,000		
	支 払 手 数 料	費	100,000	110,000	△10,000		
	租 税 公 課	費	22,000	25,000	△3,000		
	退 職 給 与 引 当 金 繰 入 額		1,000,000	1,000,000	0		
	敷 金 引 当 金 繰 入 額		0	181,000	△181,000		
	雑 費		150,000	150,000	0		
	退 職 金		146,520	0	146,520		
	研 究 発 表 会 費						
			開 催 費	2,050,000	1,790,000	260,000	
			印 刷 費	990,000	1,140,000	△150,000	
	印 刷 製 本 費						
			機 関 誌	13,200,000	13,200,000	0	
			論 文 誌	2,000,000	2,000,000	0	
			報 文 集	200,000	200,000	0	
			印 刷 費	100,000	110,000	△10,000	
			名 簿 刊 行 費	1,000,000	0	1,000,000	
	国 際 協 力 費						
			I F O R S 会 費	410,000	275,000	135,000	
			I A O R 購 入 費	360,000	275,200	84,800	
			E J O R 購 入 費	98,000	102,000	△4,000	
			A P O R S 関 係 費	600,000	210,000	390,000	
		視 察 団 派 遣 費	0	24,000,000	△24,000,000		
研 究 活 動 費							
		講 演 会 開 催 費	615,000	642,000	△27,000		
		講 習 会 開 催 費	728,000	627,000	101,000		
		研 究 部 会 費	750,000	750,000	0		
		支 部 費	2,309,000	2,290,000	19,000		
表 彰 事 業 費			624,100	454,500	169,600		
会 議 費			824,000	857,000	△33,000		
旅 交 通 費			1,106,000	1,186,400	△80,400		
通 信 運 搬 費			3,460,000	3,391,000	69,000		
諸 謝 金			1,760,000	1,860,000	△100,000		
給 料 手 当			8,940,000	7,785,000	1,155,000		
編 集 校 正 費			1,720,000	1,700,000	20,000		
消 耗 品 費			700,000	700,000	0		

勘 定 科 目			予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
予 備 費	F M E S 関 係 費		300,000	0	300,000	
	表彰事業引当金繰入額		130,000	200,000	△70,000	
	記念事業引当金繰入額		500,000	500,000	0	
	雑 費		100,000	100,000	0	
			0	1,000,000	△1,000,000	
当 期 支 出 合 計			66,385,420	88,660,900	△22,275,480	
次 期 繰 越 収 支 差 額			14,830,588	11,634,702	3,195,886	
支 出 合 計			81,216,008	100,295,602	△19,079,594	

昭和60年度新役員候補者ならびに継続役員名簿

会務役職	定 数	候 補 者	非 改 選 役 員
会 長	1 (0)		近 藤 次 郎
副 会 長	3 (2)	海 辺 不 二 雄 小 笠 原 暁	伊 理 正 夫
庶 務	2 (1)	梅 沢 豊	柳 沢 滋
国 際	1 (1)	伏 見 正 則	
研 究 普 及	2 (1)	森 雅 夫	高 井 英 造
編 集	2 (1)	柳 井 浩	阿 部 俊 一
会 計	1 (0)		森 下 啓 造
無 任 所	4 (1)	高 橋 幸 雄	児 玉 正 憲 富 田 英 雄 山 本 正 明
監 事	2 (1)	真 壁 肇	島 田 俊 郎

() 内は60年度改選数